

Oct. 29, 1995 : 沖縄本部町平敷

この日も至るところ名護城跡で聞いたセミがハイトーンの金属音を響かせており『チャンスチャンス』という風にも聞き取れる。雨で湿った赤土の路面には数頭のイシガケチョウが吸水活動に余念がない。黒い大型のコノマチョウらしき姿がふわふわとブッシュに消えていったがウスイロ、クロコノマいずれであったのかは不明。1993年には真剣にネットインを図ったリュウキュウミスジもこの時期では発生が少なく、もはや長居は無用。きれいに舗装された広い林道の登りに移る。道路沿いにイシガケチョウがやたらと多い。まるで道案内をするかのように、路面とほぼ平行して飛び交う。いちいちネットインしていたらとても先には進めないであろうほどの数である。林道沿いにはシロノセンダングサの白い花が点々と続いている。そのやや遠めの位置に夢中で求蜜している黒っぽいマダラチョウらしき姿が目に入る。ヤエヤマムラサキか、それともマダラチョウの仲間か。マダラチョウだとすれば迷蝶の可能性が大きい。近づくとどうみてもマダラチョウである。心臓の鼓動の高鳴りを感じながらネットに納める。実にあっさり迷蝶をしとめる。ツمامラサキマダラの美麗♂である（この時点で本種がすでに沖縄本島から八重山諸島各地に広く定着していることをまだ知らない）。これまでにも迷蝶として採集されたこと



名護乙羽岳 Oct.29,1995 ツمامラサキマダラ♂

が多い蝶なので画期的というわけではないが、まったく予測をしていなかった種類だけにたまらなくうれしい。とてもいい気分です歩を進めダンプカーが出入りすると思われる三叉路に出る。その角地にイシガケチョウの小集団

吸水が見られ、近づくと白い紙ふぶきのように舞上がる。この三叉路を左に進む赤土の道はダンプカーが出入りする工事用の道路らしいので、前回と同じ舗装道路にこだわって進むと、背の高いタイワンヒヨドリバナの白い花が咲くコーナーで、まぎれもなく複数頭のツمامラサキマダラが求蜜している場面に出くわす。今度は求蜜中の蝶をゆっくりとビデオに記録する余裕もあり、いぜん迷蝶には違いない（と、この時点でまだ信じている）ツمامラサキマダラを複数頭しとめることができ喜びが増す。台風などの風に乗って迷い込んだ母蝶からの次の世代が大量発生したものらしく、このあと峠にいたる林道のあちこちで、ごく普通種かのごとくに本種をたくさん採集できてどうやら迷蝶とはいえない発生だと思われ知らされる。伊豆味の町中に入ってからランタナやタイワンヒヨドリバナなどの花上に見られるし、古嘉津宇（こかつう）村落にも相当数をみる。多くの場合、雌雄同数が同じところで求蜜している。日本蝶類学会誌 Butterflies (1995:No.11、p.48-54;『迷蝶アラカルト』)には1994年にも土着を思わせる相当数の発生が認められた、との記載があって、今回の発生状況は明確な土着を裏づけるものだと考えられる。



名護乙羽岳 Oct.29,1995 ツمامラサキマダラ♀

右へと入る林道が大嘉陽 (Ôkayou) に至るというきれいなコノハチョウも描かれた道標のある三叉路地点をさらに直進して広場に車をとめる。ツマベニチョウやツمامラサキマダラ、リュウキュウミスジ、イシガケチョウなどがセンダングサの茂る深い草むら周辺を飛び交っている。



先ほど素通りしてきた大嘉陽に至る林道の様子はどうか。車の中で午後からの観光タイムに思いをめぐらせてカーナビをいろいろと点検している妻を残して、徒歩で入り込んでみる。路傍一帯にヒヨドリバナが咲き乱れ、ツمامラサキマダラ、アサギマダラ、アカタテハ、イシガケチョウなどがまさに乱舞している。ツمامラサキマダラの多さはすさまじく、一目数十頭という状況で、♂の翅表が太陽光を受けて濃紫に輝く美しさを含めて、この光景を妻にみてもらわなくては、と急ぎ広場へともどる。

ツمامラサキマダラが密度濃く飛び交う場所で、筆者がネット片手に林道を歩く状況のビデオ記録を妻に依頼すると、太陽光線を受けて藍むらさきに輝くツمامラサキマダラのあまりの美しさに、妻はたちまち身近に飛び交うツمامラサキマダラの♂を追ってしまうのがむしろうれしい。



### Oct. 27-28, 2018 石垣島 : 屋良部林道、バナナ周回道路

Oct. 28 : 太陽光が照らす場所が少なくなるとチョウ影も薄くなる。仕方なくまだ日当たりが残るバナナ公園のサンダンカ花壇が続く周回道路へと再転戦。路傍のカラスザンショウの花にはクロアゲハ、ヤエヤマカラスアゲハ、ベニモンアゲハ、ツمامラサキマダラなどが訪れて吸蜜しており、キョウチクトウへの採卵を期待してツمامラサキの♀を採取し、活かして持ち帰る。

Oct. 29 : 次のチョウタイムは三度目のバナナ公園周回道路。シロノセンダングサの花蜜に夢中になっているツمامラサキマダラの♂がときおり翅表を見せてくれ、きわめて新鮮度が高いイワサキタテハモドキの全開翅、V字開翅シーンもみられる。陽ざしが届き始めるとシロノセンダングサでツمامラサキマダラの♀が吸蜜し始めるので、撮影記録をとってから採卵目的でネットイン (11月4日までうすめたポカリスエットを与えて延命してくれたが、テイカカズラではなくキョウチクトウしか準備しなかったのがよくなかったのか、産卵することなく絶命)。

